

令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 京都府の事例（2022年度～）

<現状及び課題>

- ▶ **高校中退者数**：967人
- ▶ **中退者率**：1.4%【令和4年度】 ※全国平均（1.4%）と同程度
- ▶ **暴力行為の発生件数（1,000人あたり）**は増加傾向にあり、京都府では10.2件【令和5年度】で全国平均（8.7件）を上回っており、問題を抱える児童生徒が多い状況。

<取組内容及び実施方法>

【実施体制の整備】

- ▶ 支援コーディネーター、臨床心理士等で構成された「ユース・アシスト（立ち直り支援チーム）」、地域に密着した居場所である「ユース・コミュニティ」を設置し、府内の学校、児童相談所、若者サポートステーション等の関係機関と連携することで実施体制を整備。

【学習相談・学習支援の実施】

- ▶ 「ユース・アシスト（立ち直り支援チーム）」及び「ユース・アシスト（立ち直り支援チーム）北部サテライト」において、高校中退者が多く含まれる非行等の問題（二次障害や特性を持ち合わせた場合も含む）を抱えた少年を対象に学習支援・就業支援等を実施。
- ▶ 地域で活動する民間団体に委託し、「ユース・コミュニティ」を2つの地域に設置し、学習支援や就業支援等を実施。
- ▶ 本人の希望に応じ、協力団体での就労体験や若者サポートステーションへの誘導を行う。

【広報の取組】

- ▶ 業務運営委員会を年2回開催し、具体的な方策等を検討するとともに、関係機関に対し事業の周知を図る。



学習支援の様子

<取組の成果>

- ▶ のべ1,300名以上が事業を利用。実利用者（56名）のうち18名が高等学校卒業程度認定試験の受験や高等学校（入学・再入学・編入学）の受験、就職活動を実施し、約8割の15名が高等学校卒業程度認定試験合格、高等学校合格、就職を果たした。（高卒認定試験については3名が受験し、2名が科目合格）
- ▶ 問題を抱えた少年は孤立しがちであるが、今後の進路相談ができる大人がいることで将来に目標がもてるようになったり、定期的な学習により、非行・暴力等の問題行動が落ち着き、進学や就職につながったケースも見られた。

<今後の取組>

- ▶ 暴力行為等の問題を抱え、不登校・低学力等の困難を抱えた生徒が多いという課題について、業務運営委員会において関係機関との連携を深め、それぞれの問題意識を高めることで、今まで支援が届かなかった対象者への周知、利用の促進を目指す。
- ▶ 学習支援の効果を盛り込んだ広報チラシを活用し、事業の認知度の向上につなげることで、利用の促進を目指す。
- ▶ 高校を中退し、通信制高校に転学する生徒の支援も多いことから、高校への広報に力を入れて進める。また通信制高校に転学後、高卒認定試験受験により単位取得できる高校もあることから、高卒認定試験の学習にも力をいれて進める。

令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 京都府の事例（2022年度～）

<実施体制のイメージ図>

